

ドライフレックス®ニュース 2011年6月17日再編集

目次

1：密着しない塗料の種類	1
2：ログ等丸太補修に関する注意	2－3
3：建具等補修事例	4－6
4：補修お手本・工具を活かしてプロの仕上がりを	7

1：密着しない塗料の種類

日本ペイントのケンエース、関西ペイントのアレスセラマイルドやアレスアクアビルド等、シーラーレスの塗料はドライフレックス®に密着しにくいとのご連絡をいただいております。現在オランダで密着試験を行っておりますので、詳細は後日ご連絡いたしますが、シーラーレス塗料をお使いの場合はドライフレックス®のご使用はお控えいただくか、塗装前にお客様自身による十分なテストを行ってください。

基本といたしまして、ドライフレックス®の補修後は、まずシーラー(アンダーコート)を塗布してからトップコートで仕上げてください。
補修したエポキシ部分と木部やモルタル部分では塗料の吸い込みが異なるため、トップコートの一発仕上げでは色むらの原因にもなります。

2 : ログ補修の注意事項



ドライフレックス®でログ補修をしたところ
1年以内に破断したとのご連絡をいただき
ました。

ログ(芯有の丸太)類の補修には、ドライフレックス®使用に関する“3つの基本ルール”が絶対条件となりますのでご注意ください。

① 10mm x 10mm ルール

ドライフレックス®1 & 4の密着性と弾性力を活かすためには、必ず接着面に最低10mm x 10mmの厚みを確保してください。
(部位により5mm x 10mm可)

② 接着面の掃除

補修箇所の腐れ、ホコリ、黒ずみ、旧塗膜、油等を除去する。ログはクラックが先細りですので“はつり”を入れないと汚れが取りきれないばかりか、接着面は木の繊維で凸凹があり平滑な接着面の確保ができません。

③ プライマーの適切な処理

ドライフレックス®(プライマー)は、塗布してから20分浸透させる。20分後表面に残った余剰分は必ずウエス等でふき取る。

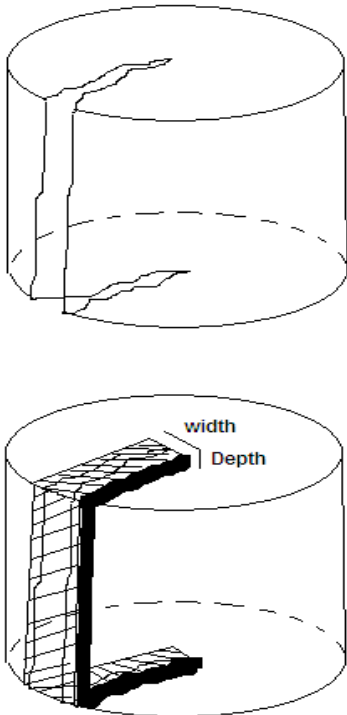
この現場はプライマー処理をしたそうですが、ログの割れにそのままプライマーを入れたとのこと、プライマーの余剰分も十分にふき取れてない可能性がございます。

つまり、補修箇所の厚みと幅を十分に確保できるかどうかで密着に大きな影響を及ぼします。

補足 : 調色に溶剤系顔料をお加えになっただけなのですが、溶剤はドライフレックス®の弾性を損なう恐れがございます。調色の際は無機系顔料にてお願いいたします。

ログの補修方法

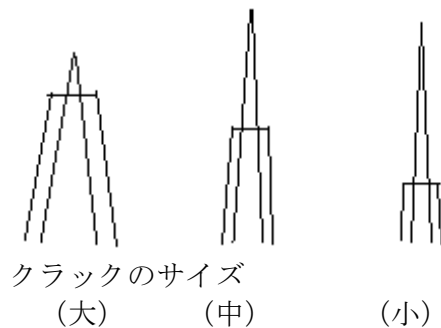
図1 クラックが入った状態



外から見えている部分の処理(図1 & 2)

クラックの表面はラウンドカッター等(径9.5mm)で図2のようにはつりを入れる
必要最小幅: 10 mm
必要最小厚み: 10 mm を確保する
(クラックが大きい場合は必要幅、厚み共に、上記より大きくなります)

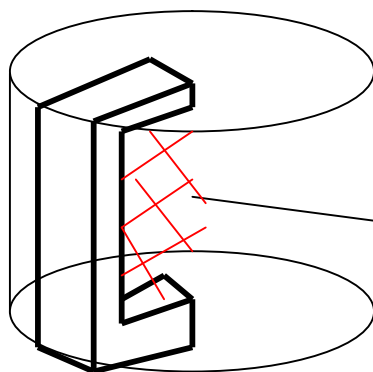
図2 : 10mmx10mm にはつった状態



ログ内部の下処理の仕方(図3)

クラックが細すぎて(約1mm程度)ナイフやカッターが入らない、もしくはクラックが細すぎてドライフレックス®が充填できない部分に達するまではつりを入れる。(クラックが大きい場合は中心に近い部分まではつりが可能になる)

図3 : ログの内部状態



ドライフレックス®必要量

図4太線部の5-10mmx10mmの“カギ型”部分だけドライフレックス®を充填してください。材料節約のため、赤線の部分は空洞もしくはバックアップ材で処理も可能です。

幅5-10mm x 深さ10mm
のカギ型部分のみ必要

図4 : ドライフレックス必要量(太線内)

ホテル客室内・テーブル補修



客室に設置されたテーブルの欠損。



ドライフィックス®（プライマー）を塗布。
20分浸透させる。20分後、浸透せず表面に残ったプライマーは必ずウエス等でふき取る。



木繊維のササクレが目立つ箇所を除去。
十分な補修面を確保。



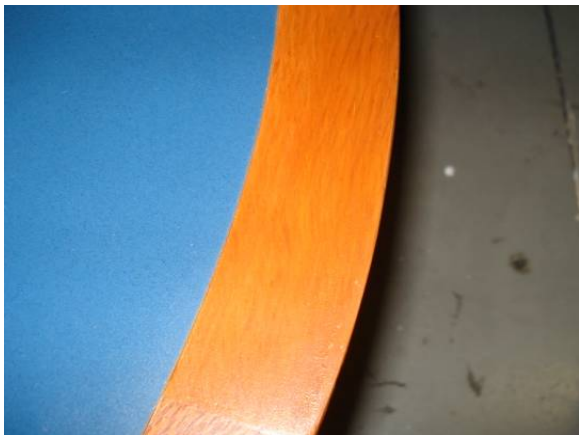
塗装後下地の色が影響しないよう、あらかじめドライフレックス®を調色して充填する。
押し込みながらエアを抜くこと。



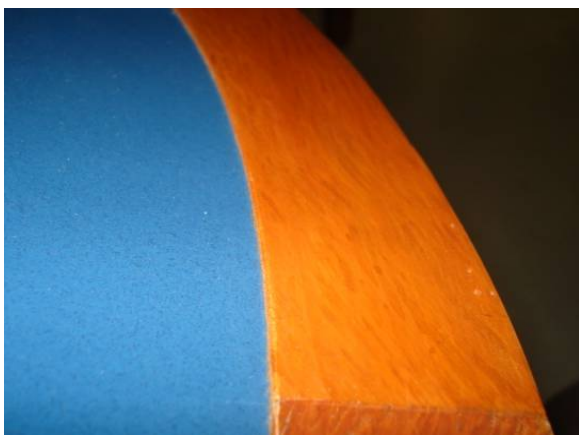
ペーパーをあてて接着面を平滑に整える。



充填作業。反対側から見たところ。



塗装完了。写真1



塗装完了。写真2

(注：写真1-2はお客様より送付いただいた写真のため、アングルが違います。)

ホテル客室ドア・欠損部補修



客室ドアに欠損が発生。



ドライフィックス®(プライマー)を塗布。20分浸透させ、後に表面に残った余剰分はふき取る。



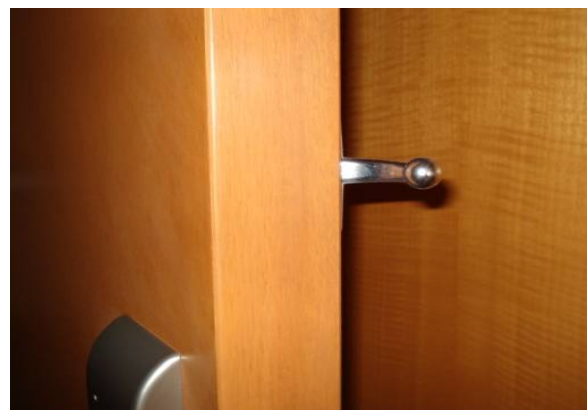
接着面確保のため10mmx10mm程にはつりを入れる。



塗装後、下地の色が影響しないようあらかじめ調色下ドライフレックス®を充填する。プライマーとの間にエアを残さないよう注意。



ペーパーをあてて表面を平滑にする。



塗装完了。

補修お手本・工具を活かしてプロの仕上がりを



上の写真は弊社のデモサンプルです。補修の際、スベスベした平滑面が出せずお困りの方はいませんか？以下の工具を使ってサンプル同様の仕上がりをめざしてください。

準備する工具

- ペーパーサンダー
- カッターまたはグラインダー



補修面の塗膜をペーパーサンダーで除去する



カッターで補修箇所を10 x 10mmはつる



プライマー処理をする



ドライフレックス®で充填成形する



硬化後、ペーパーサンダーで表面を平滑にする。
この一手間で表面がツルツルの平面になります。